自衛隊の現場

那覇（沖縄県）

那覇駐屯地で創立記念行事を開催

車両体験搭乗で子供たちの歓声

第15旅団は令和5年11月26日、那覇駐屯地で「第15旅団創隊13周年および那覇駐屯地創立51周年記念行事」を開催しました。

式典の開始にあたり、昨年4月6日に発生したUH－60JA航空機事故で殉職された10人の隊員に黙祷を捧げました。

大人気の車両体験搭乗

式典において、第15旅団長・松永浩二陸将補は「本年3月には石垣島に石垣駐屯地が新たに開設され、旅団隷下部隊である八重山警備隊も新編され、第一列島線における陸上自衛隊の部隊配備が進展し、南西地域における陸上防衛態勢のさらなる強化を図っております。第15旅団は、今後とも精強化を追求し続けるとともに、在沖縄の米軍部隊、在沖縄の海空自衛隊、沖縄県など関係機関との連携を密にし、そして皆さまとの信頼関係と絆をより強固なものにするための努力を積み重ね、南西地域における抑止力の要としての役割を果たし続ける所存です」と式辞を述べました。

式典に続きアトラクションでは、隊員によるエイサーを披露し、会場が一体となり、大いに盛り上がりました。

装備品展示では、来場者が装備品と一緒に写真をとる姿が多数見られました。

また、車両体験搭乗では、初めて乗る自衛隊車両に興奮する子供たちの歓声が響き、ヘリの体験搭乗では、抽選で選ばれた150人が約10分間のフライトを楽しみました。

隊員によるエイサー

本行事には県内外から多数の来場者が訪れ、大盛況のうちに幕を閉じました。

第15旅団は引き続きさまざまな行事を通じ、地域に寄り添いながら、沖縄県民の皆さまの安心・安全のため日々任務にまい進していきます。

遠軽（北海道）

北海道警察北見方面本部との共同訓練

警察との相互運用能力の向上を図る

第2師団（師団長・井土川一友陸将）は令和5年11月28日から30日の間、遠軽駐屯地で、北海道警察北見方面本部（本部長・高倉孝司警視長）と自衛官・警察官合わせて約60人が参加する共同訓練を実施しました。

この訓練では、治安出動下令時における武装工作員による不法行動などを想定し、事態対処能力および警察との相互運用能力の向上を図りました。

30日に行われた実動訓練開始式において、第2師団を代表して参加した第25普通科連隊長（谷口慎1等陸佐）が「両機関が顔を合わせて訓練できるのは大きな意味があり、今訓練における問題点の把握および是正を通じ、連携強化および事態対処能力の向上を図ることが重要」と述べ、一方、北見方面本部警備課長（野村憲成警視）は「さまざまな事態を想定し、個々の隊員が自らの役割を理解し、それを実践することが重要」と述べました。

訓練では、テロなどが発生した際、現場に迅速・安全に移動するための共同緊急輸送訓練を駐屯地および駐屯地周辺で実施した他、検問所における共同対処要領などを各場面に応じて訓練して認識の共有および練度の向上を図りました。

パトカー先導の共同緊急輸送訓練

帯広（北海道）

連隊武装走競技会を実施

ペットボトル2本を持って握力強化

第4普通科連隊（連隊長・南條衛1等陸佐）は令和5年11月17日と20日の2日間にわたり、帯広駐屯地で「連隊武装走競技会」を実施しました。

両手のペットボトルで握力強化

この競技会は、作戦・戦闘に必要な体力・気力の底上げを促すとともに、部隊の志気の高揚および団結の強化を図り、併せて旅団冬季戦技競技会に向け足腰の強化を図ることを目的として行いました。

競技は、駐屯地内1周6kmのコースを個人走により競い、小銃・装具の他に握力強化のため500mlのペットボトルを両手に携行して行われました。

競技に先立ち、南條連隊長からは「勝利に対する執念」と「安全管理」の2点を要望され、各選手たちは限られた練成期間の中、中隊長を核心として団結し勝利に対する執念を持って全力を尽くしました。

結果は、2位の中隊と平均タイム5・1秒差をつけた第3中隊が部隊対抗の部を制し見事優勝しました。

個人成績の第1位は男性自衛官が第3中隊の福島1等陸曹（24分38秒）、女性自衛官では同じく第3中隊の松岡陸士長（36分29秒）でした。

本競技会を足掛かりにさらなる体力練成を重ね旅団冬季戦技競技会優勝に向け、連隊一丸となって臨むことを強く決意しました。

百里（茨城県）

「夜空（そら）コン」の会場設営などでボランティア

隊員の出会いをサポートできるイベントを企画

百里基地准曹会は令和5年10月22日、小美玉市空港利用促進協議会が主催する「夜空（そら）コン」の会場設営および接遇などのボランティアスタッフとして16人が参加しました。

お見合い回転寿司

当日は、天候にも恵まれ、絶好の街コン日和となりました。今回、約4年ぶりの開催となった「夜空（そら）コン」は、茨城空港と空のえき「そらら」を舞台に約400人（男性200人、女性200人）が出会えるイベントとなっており、自衛官と出会えるチャンスもあってか、会場内は大盛り上がりとなりました。

まず最初に、1対1のお見合い回転寿司（制限時間90秒）が40分間行われた後、フリータイムが20分間行われました。

参加者は、最初のお見合い回転寿司に全力を注ぎこんでおり、フリータイムを休憩時間にするような方もチラホラ…。司会が「時間を有効に使ってくださいね。スマホを眺めている場合ではないですよ」など檄を飛ばす場面もあり、異性に対して勇気を出して話しかける大変さをスタッフとして見守りながら実感させられました。

百里基地からも本イベントに60人以上の方々にご参加いただき、ありがとうございました。

百里基地准曹会は、基地隊員の出会いをサポートできるようさまざまなイベントを企画していきます。ボランティアスタッフも募集いたしますので、ご連絡お待ちしております。

名寄（北海道）

避難訓練に協力し、コンサートを披露

演奏に、鳴り止まぬ大きな拍手

名寄駐屯地（司令・藤田明大1等陸佐）は令和5年11月23日、名寄市民文化センターで行なわれた避難訓練に協力しました。

この訓練協力は、コンサートホールで音楽コンサートの公演中に火災が発生したとの想定で、観客の避難誘導を実施する初の試みであり、駐屯地から名寄駐屯地音楽隊15人（隊長・田中雅記1等陸曹）および名寄朔北太鼓10人（リーダー・佐藤裕樹2等陸曹）が参加し、演奏を実施しました。

プログラムは、全2部で構成され、第1部の音楽隊によるオープニングステージでは自衛隊の新しい車両行進曲「陽光を背に」ほか全2曲を、続く太鼓ステージでは和太鼓曲「山彦」ほか全3曲を演奏しました。

その直後、施設内の非常警報が鳴り響き、館内スタッフによる迅速な避難誘導により、観客および出演者をロビーに退避させました。

音楽隊によるオープニングステージ

訓練終了後の第2部では、音楽隊がポップスステージと題して「YOUNG MAN（Y・M・C・A）」ほか全4曲の耳馴染みのある楽曲を演奏し、各種ソロパートや観客を盛り上げるためのパフォーマンスを披露した他、続く合同ステージでは吹奏楽と和太鼓の音色が協演して総勢25人による歌謡曲「まつり」を演奏して、観客からの大きな注目と多くの拍手を集めました。

さらにフィナーレ曲の終了後には、観客からのアンコールに応え歌謡曲「また逢う日まで」を演奏し、鳴り止まぬ大きな拍手が響き渡る中、コンサートの閉幕とともに訓練協力は終了しました。

駐屯地は、今後も地域と連携した各種行事を通じて、人々に自衛隊をより身近に感じてもらうとともに、活力ある健全で信頼される駐屯地を目指していきます。

弘前（青森県）

「地域をささえる車大集合」へ参加

警察、消防、市役所、弘南バスなども参加

第39普通科連隊（連隊長・萱沼文洋1等陸佐）は令和5年11月3日、募集広報支援として「地域をささえる車大集合」へ参加しました。

これは、青森地方協力本部弘前地域事務所からの依頼により参加支援したもので「オートバイ」「軽装甲機動車」「救急車」を展示しました。当日は、自衛隊のほかに、警察、消防、市役所、弘南バスなどが車両を展示し、会場を盛り上げました。

子供たちを楽しませる隊員

自衛隊展示会場が、多くの家族連れで賑わいを見せるなか、隊員たちはオートバイなど展示車両で記念撮影をする子供たちを支えたり、質問に対して丁寧に答えるなどして楽しませていました。中でも、募集対象者には積極的に声をかけ、入隊志願者獲得に全力で協力していました。

第39普通科連隊はこれからも募集広報を積極的に支援し、地域の皆さまや、募集対象者の自衛隊に対する理解を深めてもらえるようまい進します。

目黒（東京都）

西太平洋海軍シンポジウムを開催

26カ国29人の各国海軍士官が参加

海上自衛隊幹部学校（学校長・江川宏海将）は令和5年10月18日から25日の間、「第11回西太平洋海軍シンポジウム次世代海軍士官短期交流プログラム」を開催しました。

このプログラムは、インド太平洋地域各国海軍の次世代を担う中堅士官を招き、海上自衛隊幹部学校指揮幕僚課程に在籍する陸・海・空自衛隊中堅幹部と約1週間にわたり討議や研修を通じ交流するものであり、今回は26カ国29人の各国海軍士官と指揮幕僚課程学生34人が参加しました。

グループ討論の様子

このプログラムは、各国海軍士官に、わが国の安全保障環境、防衛政策などに対する理解を深めてもらうとともに、参加者相互の理解を促進、人的ネットワークを構築し、多国間協力を推進するための土台を築くことを目的として、平成12年から開催しているものです。

プログラム前半では、わが国の安全保障環境、防衛政策および自衛隊の活動紹介を皮切りに、各国海軍士官が自国の安全保障環境や海軍の活動などを紹介し、プログラム後半のグループ討論での討議の基礎となる知識を共有するとともに、部隊・文化研修を通じ相互理解を深めました。

グループ討論では「海洋秩序の維持・強化のための海軍間の取り組み」をテーマに討議し、インド太平洋が直面する共通の課題への海軍間協調について、活発な意見が交わされました。言葉の壁や文化の違いを乗り越え、各国海軍が協調し連携することの重要性について学び、信頼醸成の増進に成果を挙げました。

閉会に際し、江川学校長は「法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を実現するためには、各国の協調が不可欠であり、本プログラムを通じて深めた相互理解が海軍協調の礎になる」と述べ、各国海軍士官一人一人に参加証書を手渡すとともに、それぞれの積極的な取り組みに対し謝意を表しました。

各国参加者のホスト役を兼ねて本プログラムに参加した指揮幕僚課程学生は、近い将来自衛隊の枢要な配置で勤務し、同盟国や同志国などとの連携やその強化に重要な役割を果たすことが期待されています。彼らが本プログラムを通じて得た異文化コミュニケーション能力や各国海軍士官との人的ネットワークは、多国間の対話と協力の推進に必ず役立つものであり、グローバルに活動する海上自衛隊にとっても貴重な財産を得ることができました。

八戸（青森県）

地本と合同で航空機体験搭乗を実施

晴れ渡る秋空の中で飛行体験

八戸駐屯地（司令・梶田槙路1等陸佐）は令和5年11月12日、青森地方協力本部と合同で、自衛隊の任務に対する理解の促進を図ることを目的に、日頃から駐屯地にご協力いただいている方々に対し航空機（UH－1J）体験搭乗を実施しました。

体験搭乗した航空機の前で

参加された58人の方々は、搭乗安全教育を受けた後、第9飛行隊のエプロン地区から搭乗し、晴れ渡る秋空の中、約10分間八戸市上空を飛行体験しました。参加者からは「大変良かった」「とても貴重な体験ができた」「もう少し乗っていたかった」などの感想を多くいただき、参加者は満足した様子で八戸駐屯地を後にしました。

八戸駐屯地は、今後とも地元住民との交流を深め、自衛隊に対する理解の促進および必要な協力を獲得し得るように努めていきます。

北千歳（北海道）

部外企業との意見交換会・職場体験

お互いが抱える問題認識の共有を図る

北千歳駐屯地（司令・中村雄久陸将補）は令和5年11月16日、北千歳駐屯地内で、部外企業（ANA新千歳空港職員12人）との意見交換会および職場体験を行いました。

意見交換会では、双方におけるハラスメント対策やワークライフバランス推進などの意見を交換してお互いが抱える問題認識の共有を図りました。

また、職場体験では、陸上自衛隊・駐屯地概要説明、基本教練、体験喫食、個人装具など試着体験、史料館、火砲展示場の見学を実施して自衛隊へのさらなる理解および信頼感を得ることができました。

基本教練を体験する空港職員

漢字あそび 第17回

問題・知ってるかな？

慣用句

初級
知らないとちょっと恥ずかしい

・心から感動すること、心の奥で感動し共鳴すること

・目上の人を激しく怒らせること

中級
意外とやっかい

・戦争をすること、戦うこと

・子供は夫婦を繋ぐ「カスガイ」のようなもの

上級
自慢できるかな

・沸騰するような騒ぎのこと

（解答は、7面に）

（出題・解答・LUCKY）

※数字：頭の体操はお休み

躍動 令和6年
防衛省・陸上・海上・航空自衛隊　謹賀新年　がんばろう日本 我ら企業も応援します。
協賛：防衛省関連優良企業（順不同）
協力：公益社団法人自衛隊家族会
企画・制作：（有）防衛企画

Nippi Corporation
日本飛行機株式会社
〒236-8540
神奈川県横浜市金沢区昭和町3175番地
TEL 045-773-5100
FAX 045-773-5102
URL：https://www.nippi.co.jp/

MITSUBISHI ELECTRIC
Changes for the Better
三菱電機株式会社
〒100-8310 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号
www.MitsubishiElectric.co.jp

サンケイ総合印刷株式会社
本社 〒100-8077 東京都千代田区大手町一丁目7番2号
産經新聞社11階
TEL 03-5542-1563

想いをカタチに…物流をクリエート
創立80周年 ANNIVERSARY
「手から手へ」安心と信頼をお届けする……
GREEN LOGIPORT
西多摩運送株式會社
本社 〒196-0015 東京都昭島市昭和町1-3-28
TEL (042)546-6111 FAX (042)546-6116
URL https://www.nishitama-unsou.co.jp

With you.
あなたがいる。
あなたといる。
アサヒグループは、共通理念「Asahi Group Philosophy」を掲げ、グローバルな活動を行なっています。
Asahi
アサヒグループジャパン株式会社

すべてを突破する。
TOPPA!!!
TOPPAN
TOPPAN株式会社 〒112-8531 東京都文京区水道1-3-3

IHI
株式会社IHIエアロスペース
本社／〒135-0061 東京都江東区豊洲3丁目1番1号（豊洲IHIビル）
TEL 03-6204-8000 FAX 03-6204-8810
富岡事業所／〒370-2398 群馬県富岡市藤木900番地
TEL 0274-62-4123 FAX 0274-62-7711

公益社団法人 自衛隊家族会
防衛情報誌「おやばと新聞」広告業務
有限会社 防衛企画
〒104-0061 東京都中央区銀座1-20-14 銀座NKビル3F
TEL 03-3538-2676 FAX 03-5250-8617